

和合の枝垂れ梅

3本が1本に合体した木

ここは、どぶろくという未濾過のにごり酒が一般的だった江戸時代（1600年～1868年）に透明の清酒を生み出したことで有名になった革新的な酒造家、遠山氏の酒蔵があった場所です。遠山氏の清酒は間もなくして中山道を旅する旅人が味見を心待ちにする、この地の特産品としての地位を確立しました。

酒蔵と住宅は、この看板から見た道路の反対側にありましたが、庭園は現在でもこの枝垂れ梅が立っている場所まで広がっていたと思われます。この幹周 2.5m の木の根元は 3 本の幹からなっています。そのうち 1 本は完全に朽ち果てており、もう 1 本は枯れ、1 本だけが未だに生きています。この木は 3 月半ばに開花します。